

ユニー 環境コミュニケーション レポート2020

お客さまと共に持続可能な社会の実現をめざしています



環境理念



地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

持続可能な社会を目指して

現在のことだけでなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめてみませんか？

脱炭素社会

CO₂など温室効果ガス発生抑制を目指す社会

持続可能な社会

循環型社会

限りある資源を大切に、3Rを実践する社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会

ユニーは100年後の子どもたちのためにSDGsに取り組んでいます。

ユニーは小売業として「SDGs 持続可能な開発目標」達成のため、環境活動・社会貢献活動において、お客さま、地域の方々、地域行政、お取引先さま、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることをめざし、そして、お店に皆が集う地域のコミュニケーションスペースとしての機能作りにも取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ユニーのSDGsの取り組み

ユニーの重点テーマ	環 境				社会貢献			従 業 員	
	持続可能な社会に貢献します				地域の方々、企業、自治体、NPOなどと一緒に社会貢献・地域貢献活動を推進します			広く社会に貢献できる人材育成を目指します	
	脱炭素社会	循環型社会	自然共生社会	環境教育					
ユニーの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化防止 ●環境配慮商品開発 ●省エネルギー ●スマートシティ  電気自動車充電スタンド設置	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物削減 ●容器包装店頭回収 ●食品リサイクル  リサイクルボックスで容器包装回収	<ul style="list-style-type: none"> ●食品販売を通じた生物保全活動 ●陸の豊かさを守る ●海の豊かさを守る  田植え体験	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども環境学習 ●出張授業 ●地域との環境教育 ●関連事業者連絡会  子ども環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ●被災地支援 ●エシカルなお買い物 ●認知症お買い物サポーター  認知症カフェ	<ul style="list-style-type: none"> ●働きやすい職場環境 ●キャリアアップ制度 ●福利厚生 ●ダイバーシティ  技能研修			
関連するSDGs									

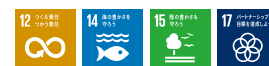
ユニーでは、エコ・ファーストの約束達成のためISO14001マネジメントシステムの範囲を拡大し、具体的な環境目標を設定しています。

持続可能な社会をめざし、企業活動を通して脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現のためお客さまと一緒に「環境にやさしいお買

環境方針	2019年度結果 (2019年3月1日～2020年2月29日)	評価
環境マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ●環境大臣とのフォローアップは実施されなかった ●エコ・ファーストの約束をISO14001の実施計画に組み込み活動した ●環境マネジメントシステムにてエコ・ファーストの約束の目標管理を実施 	○
エコストアの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●照明器具にLEDを全店舗に設置が完了 ●環境配慮型PB商品ecolonの認知及び売上拡大を図った ●環境配慮型PB商品ecolon売上高約24億4,899万円(2019年7月～2020年6月) ●環境配慮型PB商品ecolonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を一部商品で見える化した 	○
環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメントシステムを通して、省エネ教育を毎月全店にて実施した ●省エネの取り組みとしてCO2を原単位で2018年度対比8.3%削減 ●電気使用量 643,938kwh 2018年度対比△15.6% ●ガス使用量 16,003千㎡ 2018年度対比△17.0% ●石油使用量 3,365千ℓ 2018年度対比△34.5% ●物流合理化により輸送距離 1,933万km 2018年度対比△6.1%、エネルギー使用量原油換算 3,692kℓ 2018年度対比△10.0% ●段ボール使用量 2018年度対比9.9%削減 ●PB商品容器包装資材重量 2018年度対比18.0%削減 ●包装資材重量 2018年度対比11.3%削減 ●レジ袋辞退率 86.1% 	○
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物総排出量 10.0%削減 ●食品リサイクルループの取り組みを全店で継続した ●食品リサイクル率 76.2% ●発生抑制 売上高100万円当り 28.2kg ●再生利用等実施率 84.8% ●牛乳パック回収量 432t 2018年度対比△11.5% ●食品トレイ回収量 305t 2018年度対比16.4%増 ●アルミ缶回収量 618t 2018年度対比△5.1% ●ペットボトル回収量 2,297t 2018年度対比△7.2% ●リサイクルボックス回収実績 5.8%減少(既存店ベース101.2%) ●バイオマスプラ製容器包装の使用品目は増やせなかったが、レジ袋や食品売場の透明ケースについては継続して使用した 	○
環境情報の開示と環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型PB商品ecolonをHP等で紹介し、拡販した ●グリーンキャンペーンを全店で年2回実施 4,754名参加 ●ISO理解活動の中で環境教育を全店実施 ●子ども環境学習 10店舗実施 118人参加 出張講座(小学校等) 17回実施 921人参加 小中学校見学受入 87回実施 6,129人参加 ●エコ博10回開催 25,567人参加、農業体験・エコツアー等9回開催 288人参加 メッセなごや4日間 752人参加 ●環境関連事業者(取引先)連絡会セミナーは、組織変更のため開催なし 	○
環境汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> ●排水水質検査全店実施、基準値以内法令遵守 ●低濃度PCBの適正管理を実施 ●フロン排出抑制法の対応をISO目標として法令遵守 ●水銀汚濁防止法対応として電子マニフェスト、保管管理等実施 ●受動喫煙防止の対応は継続課題 	○

容器包装とリサイクル

循環型社会



一般廃棄物排出量の削減(リデュース・リユース)と再生利用(リサイクル)を目的に、容器包装リサイクル法が施行されました。ユニーは特定事業者として再商品化やリサイクルに取り組み、家庭から出るごみの約6割(容積比)を占める容器包装やレジ袋の削減に取り組みました。ユニーは容器包装をできるだけ使わない販売、使った後の容器包装を廃棄物にしない、サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装を使用するなど、お客さまと3Rを実施し環境負荷軽減に取り組んでいきます。

容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客さまと一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客さまが商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源(石油)を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

レジ袋削減への取り組み

ユニーでは2007年からレジ袋無料配布中止(有料化)を開始しました。2014年には全店の食品売り場でレジ袋無料配布中止に踏み切り、2019年度辞退率は86.1%でした。

●バイオマスプラスチック(バイオポリエチレン)製容器包装



植物由来のバイオマスプラスチック製容器包装を使用しています。

使用済み容器包装のリサイクルループ

リサイクルボックスで使用済みの容器包装を回収、再資源化し、製品として販売等のリサイクルループを構築しています。

◆ペットボトルのリサイクル





「いい物」を推進します。

2020年度目標 (2020年3月1日~2021年2月28日)	
<ul style="list-style-type: none"> ●エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う ●エコ・ファーストの約束をISO14001実施計画に組み込み活動する ●エコ・ファーストの約束の達成に向けた取り組みを推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型PB商品ecolonの認知及び売上拡大を図る ●環境配慮型PB商品ecolonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化しお客さまに訴求する ●環境マネジメントシステムを通して、省エネ教育の継続と強化 ●省エネの取り組みとしてCO2を原単位で 2019年度対比3%削減 	
<ul style="list-style-type: none"> ●各使用エネルギーを 2019年度対比5%削減 	
<ul style="list-style-type: none"> ●物流の合理化による環境負荷低減を図る ●段ボール使用量を2019年度対比5%削減 ●PB商品の容器包装資材の軽減化を図る ●包装資材重量を2019年度対比3%削減 ●レジ袋辞退率 88% ●廃棄物総排出量 2019年度対比5%削減 ●食品リサイクルループの取り組みを全店で継続 ●食品リサイクル率 77% ●発生抑制 売上高100万円当り 28.0kg ●再生利用等実施率 86% 	
<ul style="list-style-type: none"> ●全店4品目を回収 ●リサイクル回収量を増やす 	
<ul style="list-style-type: none"> ●バイオマスプラ製容器包装の利用を促進する ●環境配慮型PB商品ecolonの拡販 ●グリーンキャンペーンを全店で年2回実施する ●従業員への環境教育の継続・強化 	
<ul style="list-style-type: none"> ●子ども環境学習、出張講座(小学校等)の継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●定期的なエコ博の開催 	
<ul style="list-style-type: none"> ●環境関連事業者(取引先)連絡会セミナー開催 ●全店舗での排水水質監視を実施 ●低濃度PCBの適正管理 ●フロン排出抑制法の適正対応を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物処理法の適正対応を実施 	

廃棄物を削減する取り組み

循環型社会

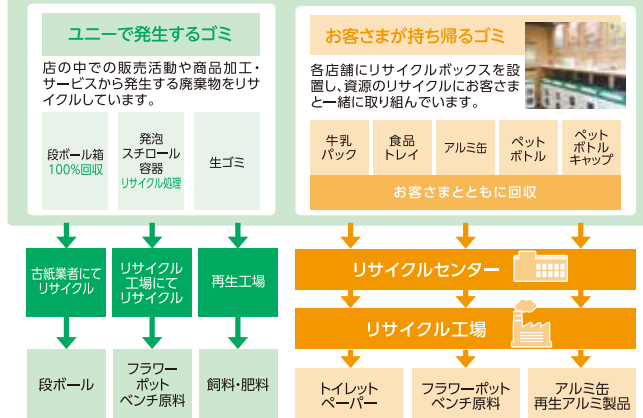


ユニーでは廃棄物を削減するために容器包装を抑制し、使用済み容器包装を店頭回収してリサイクルしています。また全店舗に廃棄物計量システムを導入し、廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進しています。

物流センターからの商品納品

商品搬入時に商品を入れてきた段ボール箱や発泡スチロール容器を使い捨てから通い箱(オリコン)にすることによって、廃棄物の発生を抑制しています。

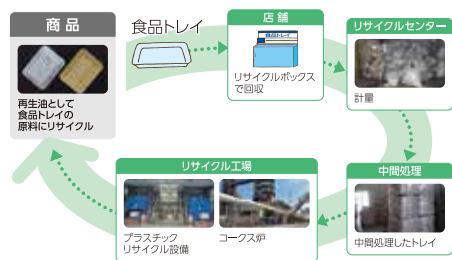
ユニー店舗



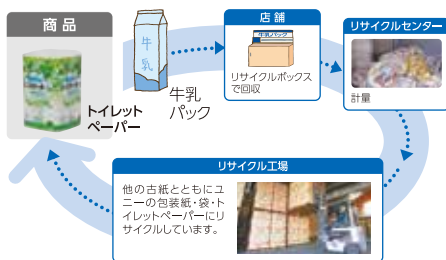
物流センターからの商品納品



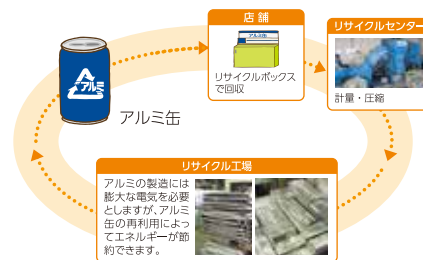
◆食品トレイのケミカルリサイクル



◆牛乳パックのリサイクル



◆アルミ缶のリサイクル



◆食品トレイのリサイクル



ボトルキャップ運動

ユニーでは回収したペットボトルキャップを、プラスチックの再生企業に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付しています。

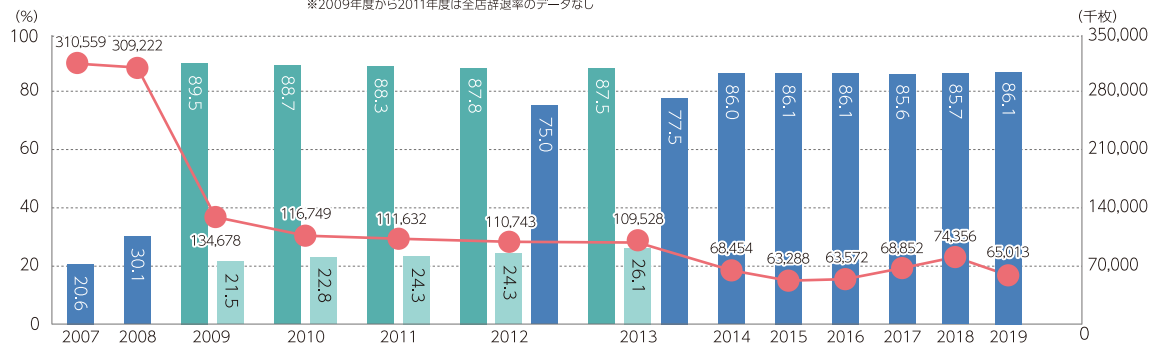


レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

◆レジ袋辞退率の推移

■全店辞退率 ■有料化店舗 ■非有料化店舗 ●枚数(単位:千枚)

※データは2017年度までは2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日までのものです。
※2009年度から2011年度は全店辞退率のデータなし



◆レジ袋使用量と容器包装リサイクル法委託金額の推移

年度	枚数(単位:千枚)	重量(単位:t)	委託金額(税込)
2007	310,559	1,818	2億9,729万円
2008	309,222	1,851	2億7,978万円
2009	134,678	1,029	2億2,272万円
2010	116,749	964	1億6,655万円
2011	111,632	851	1億6,154万円
2012	110,743	839	1億4,868万円
2013	109,528	821	1億5,804万円

年度	枚数(単位:千枚)	重量(単位:t)	委託金額(税込)
2014	68,454	616	1億6,104万円
2015	63,288	587	1億3,557万円
2016	63,572	573	1億2,489万円
2017	68,852	548	1億3,665万円
2018	74,356	583	1億0,708万円
2019	65,013	512	1億0,306万円

※容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

食品リサイクル実績

国への報告数値「再生利用等実施率」の2019年度の実績は84.8%でした。小売業の目標である60%を大きく上回っています。

◆リサイクル実績

※データは4月1日～翌年3月31日までのものです。

店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品)	2017年度			2018年度			2019年度		
	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
生鮮食品の調理クズ(野菜・果物など)、消費期限・賞味期限切れや飲食の食べ残し	12,395	8,185	66.0	11,736	8,300	70.7	10,508	7,438	70.8
魚のアラ(魚介類の調理クズや頭・骨や皮など)	2,141	1,971	92.1	1,931	1,777	92.1	1,694	1,613	95.2
廃食用油(使用済み揚げ油)	1,182	1,182	100.0	833	814	97.7	787	603	76.7
てんかす	918	531	57.8	1,119	1,119	100.0	1,019	1,019	100.0
合計	16,636	11,869	71.3	15,618	12,010	76.9	14,009	10,674	76.2

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

◆食品リサイクルの推移

※データは4月1日～翌年3月31日までのものです。

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
食品廃棄物発生量(t)	19,605	21,436	22,908	21,210	19,944	19,089	18,650	18,432	18,075	17,453	16,636	15,618	14,009
リサイクル量(t)	6,656	7,561	9,444	10,378	10,812	10,874	11,099	11,066	11,126	11,107	11,869	12,010	10,674
リサイクル率(%)	34.0	35.3	41.2	48.9	54.2	57.0	59.5	60.0	61.6	63.6	71.3	76.9	76.2
再生利用等実施率(%)※	34.0	47.3	48.9	59.0	64.1	66.5	69.6	69.7	72.9	74.9	80.6	85.1	84.8
食品廃棄物等の発生原単位(売上高百万円当りの発生量:kg)	44.0	35.8	39.0	35.6	34.7	34.2	32.8	33.0	31.3	30.4	29.9	28.4	28.2
発生原単位の対前年度比(%)	—	81.4	108.8	91.4	97.3	98.5	96.1	100.7	94.7	97.3	98.1	95.1	99.2

※当該年度の単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した値

フロン排出抑制法への対応

地球温暖化とオゾン層破壊の原因になるフロンの排出抑制を目的に、フロン排出抑制法が2015年4月1日に施行されました。業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者に、機器およびフロン類の適切な管理が義務付けられました。

◆ノンフロン製品への転換が迫られています

古い機器の多くに特定フロンのR22等のHCFCが使用されていますが、オゾン層保護法によって2020年までに生産が廃止されました。また、2016年10月に開催されたオゾン層保護に関する条約の締約国会議でHFCの代替フロンも、オゾン層の破壊係数は低いものの、先進国は2019年から段階的に削減されます。

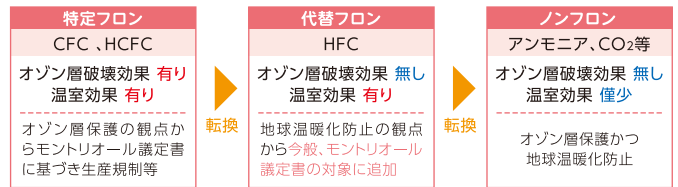
◆ノンフロン冷蔵ケース

アピタ横浜綱島店の飲料売場にはフロンガスを使用しないCO₂冷媒を用いたノンフロン冷蔵ケースを導入しました。地球温暖化の原因物質の排出を抑える狙いがあります。



ノンフロン冷蔵ケース

◆フロン対策の推移



◆フロン類算定漏えい量 (t-CO₂)

※データは4月1日～翌年3月31日までのものです。

フロン類の種類	R22	R404A	R410A	R134A	R407C	合計
2019年度	13,075	7,577	2,734	0	12	23,399

省エネルギー・省資源活動

◆エネルギー使用量の推移

※データは2017年度までは2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日までのものです。*エネルギー使用量は店舗合計の数値



2019年度のCO₂排出係数は下記より換算しました。

- 環境省温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別CO₂排出係数 (2018年度実績)
- サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.0)

ユニーで発生するゴミ

◆廃棄物排出量

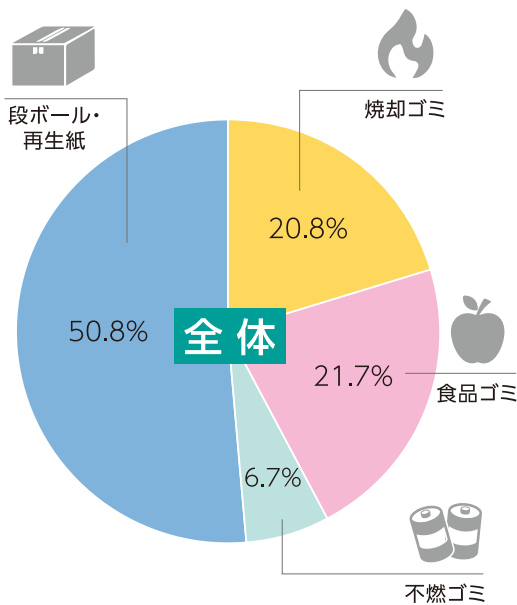
※データは2017年度までは2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日までのものです。(単位:t)

区分	種類	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	前年比[%]
可燃ゴミ	焼却ゴミ						
	一般可燃ゴミ	12,087	11,879	11,536	11,204	10,219	91.2%
	ビニール(食品系)	4,084	4,062	3,903	3,697	3,216	87.0%
	小計	16,171	15,941	15,440	14,901	13,435	90.2%
	食品ゴミ						
	生ゴミ	13,723	13,226	12,395	11,736	10,508	89.5%
不燃ゴミ	魚のアラ	2,088	2,067	2,141	1,931	1,694	87.7%
	てんかす	981	961	918	833	787	94.5%
	廃食用油	1,234	1,199	1,182	1,119	1,019	91.1%
	小計	18,026	17,453	16,636	15,618	14,009	89.7%
	発泡スチロール	823	799	734	673	607	90.2%
	プラスチック	429	423	417	394	402	102.2%
紙類	ビニール(衣、住系)	867	869	885	884	802	90.8%
	ビン	1,396	1,474	1,532	1,530	1,387	90.6%
	缶	447	442	449	427	381	89.3%
	ペットボトル	416	451	439	469	418	89.0%
	陶器・ガラス	108	105	122	148	120	80.9%
	金属ゴミ	146	146	144	141	124	88.0%
	その他	96	94	93	102	94	92.0%
	小計	4,727	4,802	4,815	4,768	4,335	90.9%
	段ボール	39,176	38,181	36,289	34,307	30,896	90.1%
紙類(再生可)	2,459	2,439	2,423	2,283	2,006	87.9%	
小計	41,635	40,620	38,712	36,590	32,902	89.9%	
合計		80,559	78,817	75,603	71,877	64,681	90.0%

※端数を四捨五入処理しているため、合計数値と一致しない場合があります。

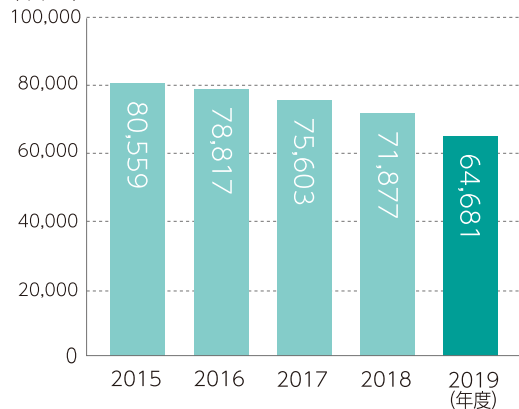
◆廃棄物構成比率

※データは2019年度のものです。



◆廃棄物総排出量の推移

(単位:t)



環境マネジメント(ISO14001)の取り組み



ユニーの環境理念に「持続可能な社会を構築するために、企業活動を通して貢献する」と明記しています。持続可能な社会とは、現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存し、誰もが平和で幸せに暮らせる社会です。この大きな目的を果たすために、ユニーはISO14001環境マネジメントシステムを用い、店舗や事務所の環境影響を調べて改善することに努めています。そして、お客さまと一緒に「環境にやさしいお買い物」によって持続可能な社会実現をめざしています。

ISO14001をアピタ・ピアゴ全店で認証取得

2004年1月の本社事務所を皮切りに各地区事務所が認証を取得しました。その後、店舗においても、従業員自らが環境問題について考え、環境マネジメントシステムを運用する事が重要だと判断し、2019年7月に全店の認証を取得しました。認証取得にあたり、ユニーオリジナルのISO教育DVDを作成、また、内部監査員養成研修を修了した社員418名が各店舗に出向き、理解活動に努めました。店舗では、毎月ISO推進委員会を開催し、環境実施計画書の具体的な数値評価・点検・見直しを実施しています。



従業員集合教育の様子



従業員から提案された「環境側面」という重視すべき環境課題に取り組む



店舗審査の様子

◆ISO14001推進のための社員教育

環境マネジメントの適正な運用と環境法令遵守など、部署や店舗の業務から環境側面を抽出し、環境実施計画を策定。目的目標を達成するために必要な力量を得るための教育を全従業員に年2回行っています。

◆店舗におけるISOの環境目標

- ① 電気使用量の削減
- ② 廃棄物の削減とリサイクルの推進
- ③ 排水水質基準の遵守
- ④ 環境関連法令の遵守
- ⑤ 営業と一体となった地域貢献活動

数字で見るユニー

お客さまや地域と共に行動をおこすことで、ユニーの環境目標を達成することができました。*データは2019年3月1日～2020年2月29日までのものです。

4 質の高い教育をみんなに

環境学習参加者
33,775人
(2019年度実績)

次世代を生きる子どもたちへの環境学習や消費者と一緒に体験型環境イベントを通じて、子どもたちへの教育を実施しています。

12 つくる責任 つかう責任

食品再生利用等実施率
84.8%
(2019年度実績)

店舗の食品残渣を堆肥や飼料にリサイクルを推進し、食品リサイクルループを全店に拡大しています。

14 海の豊かさを守ろう

レジ袋辞退率
86.1%
(2019年度実績)

お客さまと一緒に「使わなくてもよい容器包装」使用削減に努めています。

エコ・ファーストの約束



ユニーは2008年に、環境への取り組みのトップランナーとして、環境大臣とエコ・ファーストの約束を交わしました。総合小売事業者として、自社での環境課題解決とともに、生産者と消費者をつなぎ「お買い物」を通して持続可能な社会実現を推進することを約束としています。特に、SDGsの目標である、食品廃棄削減とリサイクル推進や地球温暖化防止など、エコライフスタイルを提案し、推進することがユニーのエコ・ファーストです。



エコ・ファーストの約束と環境活動

◆廃棄物の発生抑制と資源循環の推進



循環型社会構築のために、店舗から排出する廃棄物を削減し、さらに再生資源化を推進しました。

特に、世界的な課題である食糧廃棄を削減するために、食品リサイクルループを拡大し、エコ・ファーストの約束である、再生利用等実施率84.8%（2019年度）を達成しました。

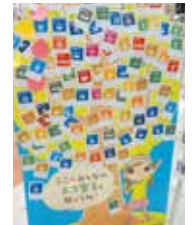


食品リサイクルループパートナーの農場

◆SDGsを重点項目にした環境教育を実施



ユニーは地域に根差した小売事業者として、生産者と消費者をつなぎ、また自治体や地元NPOなど市民団体と共同で、持続可能な社会をめざした啓発活動を実施しています。



環境イベントエコ博で、消費者とつかったSDGsツリー



小学校での出張授業「お買い物でSDGs」

◆エコ・ファースト推進協議会



各業界の環境保全のトップランナーとして、環境省と約束した先進的な取組みを確実に実行するとともに環境省の指導を得ながらエコ・ファースト企業間の連携を図り、地球温暖化対策など地球環境保全の取り組みのさらなる前進に寄与してまいります。



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業として持続可能な社会構築の取り組み～

Plastics Smart

2019年6月18日

環境大臣 原田 義昭 殿

ユニー株式会社 代表取締役社長 関口 豊司

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、環境マネジメントシステムを用いて小売業としての社会的責任を踏まえ、持続可能な社会構築を目指し、「お買い物」を通して消費者と一緒に地域に根ざした環境活動を推進します。

1 循環型社会構築を推進し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。

- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進し、業界のトップランナーの取り組みに努めます。
- 地域のリサイクル事業者・業者と連携した、地産地消の取り組みとなる全店舗での食品リサイクルループの取り組みを維持継続します。
- 食品リサイクルループの取り組みを更に推進し、2023年までに再生利用等実施率90%を達成します。
- 食品廃棄物の発生抑制の取り組みを更に推進し、2023年までに、年間売上（百万円）当たりの食品廃棄物発生量27kg以下を達成します。
- ワンウェイのプラスチックによる食品汚染防止の取り組みを推進し、リデュースの徹底、持続可能なリサイクル、バイオマスプラスチックの利用を促進します。
- レジ袋の更なる削減の取り組み、2023年までにレジ袋の使用率90%を目指します。
- 食品トレイ、ペットボトルをはじめとする使用済み容器包装の店頭回収の推進を図り、全て100%国内循環にて効果的に資源化を図ります。
- バイオマスプラスチックの利用促進については、有料レジ袋は、25%以上含有品、また、食品売場で使用している惣菜ケースには、100%含有品を使用していきます。
- 後継いご家庭のリサイクル回収を実施し、小売家電リサイクル法に基づく適正回収に努め、限りある資源を有効に循環させます。

2 持続可能な社会（脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会）構築のために、環境教育を実施します。

- SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした環境学習の取り組み、次世代を生きる子ども達に対して、お買い物を通して持続可能な社会を実現するために、学び、考え、行動する環境学習の実践を推進します。
- 店舗において環境学習を毎年実施し、年間一店舗平均100人以上の子ども達に環境教育を実施します。
- 小学校などへの出張授業の実施を推進し、年間500人以上の子ども達等に環境教育を実施します。
- 学習に参加した子ども達が新たな価値観を持ち、それを周囲の人に広げていく波及効果の高い環境教育プログラムを教育機関と共同で作り上げ、実施、効果測定を行います。
- 消費者の行動変革により持続可能な社会を構築するために、店舗で環境イベントを開催し、年間5万人以上の消費者にエコライフスタイルを啓発します。
- 店舗での省エネ、再生資源利用の推進を目指し、自社の全従業員及びテナント従業員に環境教育を実施し、廃棄物削減・リサイクルを推進します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物処理業・リサイクル業等）を一同に集めて、法令遵守・先進技術施設見学などの環境教育を年2回実施します。

3 消費者の行動変革による、持続可能な社会を構築します。

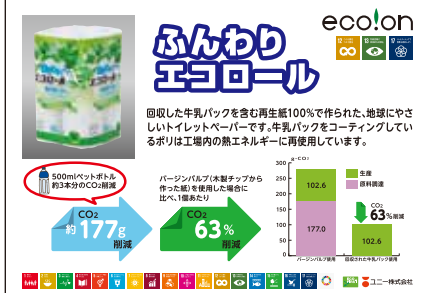
- 「お買い物」を通して、お客様とともにサプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の削減（スコープ1,2,3）を推進します。
- 容器包装等が環境配慮設計された商品やリサイクル素材の環境配慮型PB商品等の開発や提供を推進します。
- 電気自動車の普及推進のために、大型店舗に電気自動車の充電スタンドの設置を推進し、お客様に充電サービスを提供します。

ユニー株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

◆消費者の行動変革による持続可能な社会構築



ユニーの環境配慮型PB商品ecolonの環境負荷低減効果を消費者に伝え、商品選択要因のひとつにしてもらうために、需要の多い4品目のカーボンフットプリントを計測し、環境イベントで開示しました。特に、消費者が店頭回収に持参した牛乳パックを原料にしたトイレトペーパーは、バージンパルプで製造したものに比べ、63%のCO2を削減でき、消費者のエコライフスタイルが地球温暖化防止に有効であることを知っていただきました。



牛乳パックを再生利用したトイレトペーパー

◆エコ・ファースト企業

コラボレーション企画「エコとわざコンクール」



エコ・ファースト企業が協働して、エコなことわざである「エコとわざ」のコンクールを小中学生対象に行っています。第11回目の開催となる2020年のユニー賞は「リサイクル 未来の世界で大活やく!」という作品が選ばれました。





2015年、地球温暖化対策の枠組み「パリ協定」が採択され、日本は2030年までに2013年度比、温室効果ガスを26%削減する目標を掲げています。ユニーでは、この目標に貢献するため脱炭素型環境配慮商品や容器包装資材を採用し、消費者と共に「賢い選択」という意味の国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、推進しています。

国民運動 旗印はCOOL CHOICE

◆COOL CHOICEとは

国は地球温暖化対策を国民へ普及するために、「COOL CHOICE」活動を2015年より展開しています。地球温暖化への危機感を共有し、一人ひとりの意識を変え、ライフスタイルを賢く選ぶことをめざしています。



電気自動車の充電スタンドを設置

ユニーは充電スタンドの設置を推進しています。お客さまがお買い物中に充電していただくことができ、遠方からも安心してご来店いただけます。2020年10月時点で、充電スタンド設置店舗数は75店舗、普通充電スタンド114台、急速充電スタンド4台です。また充電スタンド本体に、日本政府が推進する国民運動「COOL CHOICE」の旗印となるロゴマークを掲示して利用を促しています。



スーパーへは電気自動車COOL CHOICE

プラスチック削減への取り組み

環境省主催の「プラスチック・スマート」に賛同し、リサイクル活動やプラスチックの使用削減及び環境教育などの観点からプラスチック・スマートキャンペーンに参加しています。



環境配慮型PB商品eco!on

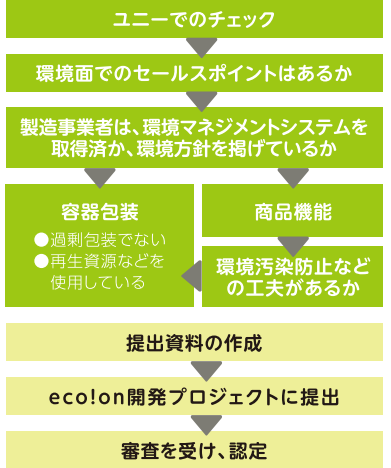


◆環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

私たちの普段の生活を省エネ・省資源といったエコライフスタイルに変えることで、持続可能な社会構築に貢献できると考えています。ユニーが企画・開発する環境配慮型PB商品「eco!on(エコオン)」は原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった、生産者から販売者・購入者お客さま・再生利用事業者などのつながりの中で、環境負荷を低減させた商品です。お買い物の際、「環境にやさしい」という視点で商品を選んでいただくことで、お客さまと一緒に地球環境の保全に貢献し、持続可能な社会の構築を目指していきます。



eco!on商品に認定されるプロセス



食品リサイクルシステム 循環型社会



世界中で食品廃棄は大きな問題であり、日本では食料自給率が40%に満たないにもかかわらず、毎日たくさんの食料を廃棄しています。ユニーでは、食品リサイクル法を遵守し、未利用食品を食品リサイクルループによる地域循環型農業で利活用し食品ロス削減に努めています。

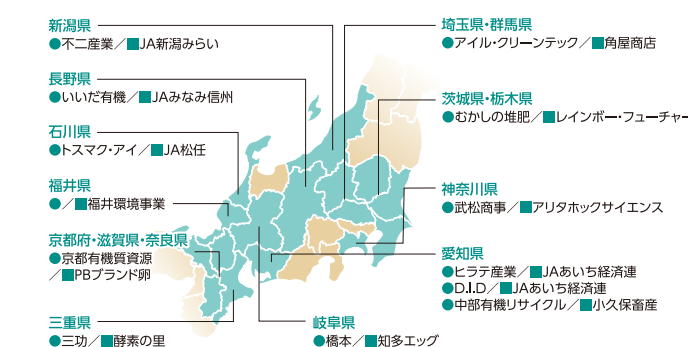
ユニーの食品リサイクル方針

ユニーでは持続可能な地域循環をめざし、安全でより環境負荷が少なく、経済的負担が重くない食品リサイクルループをめざします。

- ①安全であり環境負荷が少ないこと
- ②再生資源として有効であること
- ③経費が抑えられること
- ④継続できる方法であること

食品リサイクル実績

食品リサイクルループを全店に拡大したため、2019年度再生利用等実施率は84.8%となりました。





ユニーは、持続可能な社会構築のために環境学習を実施しています

ユニーはESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を取り入れた環境学習に取り組み、現在のことだけでなく未来のことを考え、子どもたちが美しい自然の中で生きていくための「力」を育むことを願い、活動しています。



店舗での子ども環境学習

地域の小学生が、お店で行われている環境保全活動や環境にやさしいお買い物を勉強する「子ども環境学習」を実施しています。店長を隊長としてリサイクルやお店の裏側を探検し、身近なスーパーでの環境学習を通じて、これからの持続可能な社会を生きる子どもたちがグリーンコンシューマーになることを望みます。

<h3>1 リサイクルの秘密を知ろう</h3> <p>リサイクルボックス 飲み終わったり食べ終わったあとの容器をリサイクルボックスに持ってきてくれると新しいものに生まれ変わります。</p> <p>バイオマスプラスチック バイオマスプラスチックは植物由来のプラスチック。野菜や果物、卵の容器として使用しています。</p>	<h3>2 環境にやさしいお買い物をしよう</h3> <p>ecolon商品 環境配慮型PB商品 ecolonが環境にやさしい秘密を知りましょう。</p> <p>環境ラベル 文房具にも実は環境にやさしい商品が沢山あります。</p>	<h3>3 お店の裏側を探検しよう</h3> <p>ゴミの計量体験! 従業員が働く、いつも入れないお店の裏側では、ゴミを分別して計量しています。</p> <p>オリコン組み立て体験 段ボールを減らす取り組みとして、折りたためて何度でも使える「オリコン」を使っています。</p>	<h3>4 エコ工作にチャレンジしよう</h3> <p>リサイクル工作 普通ならゴミになる物を材料にしてリサイクル工作で生まれ変わります。</p> <p style="color: white; border: 1px solid white; border-radius: 50%; padding: 2px;">任務完了!</p>
---	---	--	--



地域社会へ出張授業

子どもたちが分かりやすく学び、楽しく体験し、環境問題を身近な問題としてとらえることができるように出張授業を開催しています。



循環型農業体験

店舗から出るキャベツの外葉や魚のアラなどの未利用食品を原料にして作った堆肥でお米や野菜を育て、店舗で販売しています。良い土から美味しい野菜が作られることを自分たちで見て触って収穫の喜びを感じました。



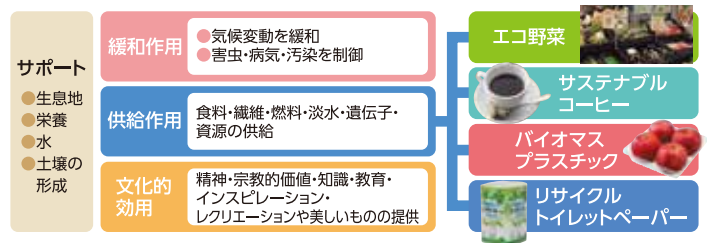
生物多様性

自然共生社会



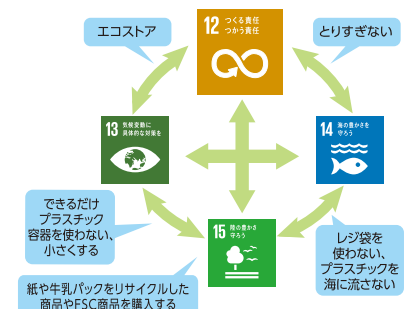
生物多様性を守る取り組み

私たちが生きていくために必要な酸素は植物によって作られ、汚れた水は微生物などによって浄化されています。そして人間は他の生き物の生命を食べて生きています。そして、生き物からの「恵み」をもたらす生物多様性を守って作られた食べ物や製品を選んで購入することが、生物多様性を守ることにつながります。ユニーはこうした「供給作用」をお客さまと一緒に「お買い物」を通して行っています。



テーブルの上の生物多様性

ユニーに並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。「私たちは生き物の命をいただいて生きている」ことに感謝し、自然環境やそこで生きる生き物を保全して生産された食品を選ぶことで、生物多様性に貢献することが私たちの務めです。



社会貢献・地域貢献



店舗での取り組み

ユニーの店舗ではすべてのお客さまが快適にお買い物を楽しんでいただけるように、店内の工夫をしています。また、地域の方々の協力のもと、「地球にやさしいお買い物」を進め廃棄物の削減・分別の実施、環境にやさしいプライベートブランド商品の販売などに努め、地域の方々が集うコミュニケーションスペースをめざします。



1 リサイクルステーション

お客さまのお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



2 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



3 段差のない入り口

段差にはスロープをつけ、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



4 おもいやり駐車場

体の不自由な方、高齢者の方、妊産婦の方などのための優先駐車場です。



5 小さなお子さまの遊び場

お子さまに安全に遊んでいただけるように、ソフトな素材を使用した遊びのスペースです。



6 ベビー休憩室(赤ちゃんルーム)

お子さまの授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室です。



！ 大規模災害への備え

大規模地震や災害が発生した時に地域の避難拠点としてご利用いただける設備を設置しています。

●かまどベンチ
非常時の炊き出しに利用できるベンチです。



●災害用トイレ
スツールの中に便器が収納されているので組み立てて使用します。



！ バリアフリー新法

すべてのお客さまに快適にお買い物をしていただくため、バリアフリー新法に対応した店舗づくりに取り組んでいます。



エコとお買い物券プレゼント企画

家庭で不要になった衣料品や羽毛布団をお持ちいただいたお客さまに割引券として使用できるエコとお買い物券を差し上げています。リサイクルパートナーからの引き取り金は緑化活動や熊野古道の保全活動に寄付しています。



クリーンキャンペーン

ユニーでは毎日店舗周辺の清掃活動を行っています。6月と10月の環境月間には、通学路や公園、遊歩道など範囲を広げて一斉清掃を行っています。



エシカルなお買い物

アピタ・ピアゴの店舗でフェアトレード商品を取り扱い、販売することで生産者の生活改善や自立、生産地の環境保全などを支援したいと考えています。



認知症買い物セーフティーネット

ユニーでは認知症の方にも安心してお買い物を楽しんでいただけるようにサポートしています。従業員に認知症への理解と見守りの役割を担ってもらうための教育を行い、店内での困りごとに対応しています。

！ お店でエコライフを体験できるエコ博

お客さまがお買い物をきっかけに、環境に興味を持っていただけるよう楽しく学べる展示やエコ工作、ステージイベントを行っています。未来の地球をまるごととっておくために、今一人ひとりができることを考え、行動につなげるきっかけになるよう活動しています。

お買い物からフェアトレードを考える

フェアトレードとは、「公平・公正な貿易」のことで、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみです。ユニーでは、これらの活動を継続的に取り組んでいます。



「未来の子どもたちに美しい自然を残したい」

ユニーは環境にやさしい生活をお客さまと一緒に進めていきます。

2021年3月発行



ユニー株式会社
愛知県稲沢市天池五反田町1番地
<https://www.uny.co.jp/>

